

平成30年度陸前高田市震災復興計画推進委員会

日 時：平成31年3月19日（火）

午後2時30分～

場 所：市役所4号棟第6会議室

平成30年度陸前高田市震災復興計画推進委員会

1 開 会

【事務局】皆様、本日はお忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

私は、推進委員会の事務局をしております復興推進課の佐々木と申します。よろしくお願ひいたします。

開会に先立ちまして、本日の日程表につきまして事務局よりご説明をさせていただきます。本日の推進委員会につきましては、現地視察と会議の2部構成となっております。初めに、本日の会議が委員の再任後最初の推進委員会になりますので、開会后、委員長、副委員長の選任を行うこととしております。その後、現場視察として市のマイクロバス等で復興事業等をご案内することとしております。現地視察終了後は、本会場におきまして会議を行うこととしており、復興実施計画の進捗状況や被災者の生活再建の状況などを担当課からご説明をさせていただいた上で、委員の皆様からご質問やご意見等をお伺いする機会にしたいと考えております。

本日の視察先でございますが、高田海岸防潮堤に上がっていただきまして、防潮堤や復興祈念公園、そして道の駅等の状況をご説明しまして、現地の状況をご覧いただく予定となっております。

続きまして、配付資料の確認をさせていただきます。お手元に配付しております会議資料をご覧ください。資料の2枚目に配付資料リストを上げております。次第の次にこの配付資料、それから3枚目でございますが、委員名簿、それから震災復興本部員名簿、次に座席表を添付しております。

続きまして、本日の会議資料となる1から8までが本日の会議の方の資料となります。資料1としまして、「陸前高田市震災復興計画推進委員会設置要綱」、資料2としまして「陸前高田市震災復興実施計画事業の進捗状況」、資料3としまして「東日本大震災からの復興のあゆみ」、こちらはA3になります。資料4としまして、A4カラー刷りになりますが、「東日本大震災からの復興の取組状況」、これはホチキス止めとなっております。それから、資料5としまして「被災事業者の再建状況について」、A4横となっております。それから、資料6、「陸前高田市震災復興計画 主要事業ロードマップ」、こちらA3の両面刷りになっております。資料7としまして、「高田地区・今泉地区 公共施設・道路等完成時期図」、A3カラー刷りでございます。資料8としまして、「まちびらき記念式典」の際の中井委員長の祝辞を付けております。

次に資料9でございます。こちらは、これから現場視察に向かう際の資料となります。資料9として現場視察資料ということで、枝番になりますが9-1から9-6まで、こちらご確認いただければと思います。添付が漏れている方がおりましたら、お手数ですが、お手を挙げてお知らせいただきたいと思います。よろしいでしょうか。

【「はい」の声】

【事務局】続きまして、これから現場視察に向かうこととなりますが、配車のお知らせをさせていただきますと思います。資料の2枚目、委員名簿をご覧ください。マイクロバス2台とハイエース1台の3台で向かうこととなりますが、資料の東京工業大学 中井教授から気仙地区コミュニティ推進協議会 村上会長さんまでが1号車ということで、マイクロバスの車両ナンバー16-87にご乗車をお願いいたします。それから、マイクロバス2号車になりますが、長部地区コミュニティ推進協議会 菅野副会長さんから陸前高田市保育協会 熊谷榮行事務局長さんまでがマイクロバスの2号車に乗車いただきます。それから、次に広田湾漁協女性部 吉田ハマ子部長から高田松原を守る会 鈴木善久理事長さんまでがハイエースにご乗車いただきます。よろしいでしょうか。

【「はい」の声】

【事務局】お願いいたします。

なお、会議中でございますが、誠に恐れ入りますが、携帯電話をお持ちの方は電源をお切りになるか、マナーモードをお願いいたします。事務局からは以上でございます。よろしくをお願いいたします。

【熊谷復興局長】皆さん、こんにちは。本日はお忙しい中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

それでは、ただいまから平成30年度陸前高田市震災復興計画推進委員会を始めさせていただきます。

私は復興局長の熊谷と申します。司会を務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

—第1部—

2 委員等紹介

【熊谷復興局長】それでは、次第の2、委員等の紹介に移ります。委員の任期につきましては、お手元に資料1としてお配りしております委員会設置要綱第4の規定により2年とさせていただいております。誠に恐れ入りますが、委員のご紹介につきましては、進行の都合上、お手元にお配りしました委員名簿をもちましてご紹介に代えさせていただきます。お時間の都合上、委嘱状は別にお配りしておりますので、ご了承願います。

また、委員名簿の次のページに記載している陸前高田市震災復興本部 本部長の戸羽太市長、副本部長の岡本雅之副市長、以下本部員、事務局職員につきましても名簿によりご紹介に代えさせていただきたいと思います。

3 委員長・副委員長選任

【熊谷復興局長】 それでは、次に次第の3、委員長・副委員長の選任に入ります。お手元に資料1としてお配りしております委員会設置要綱第5の規定により、同委員会に委員長及び副委員長各1名を置くこととしており、委員長、副委員長の選出は委員の互選となっております。

最初に、委員長、副委員長の互選の方法について、委員の皆様からご提案をいただきたいと思います。皆様の方でこういうのがいいのではないかとのご意見がございましたら、ご発言のほどよろしく願いいたします。

【「留任」の声】

【熊谷復興局長】 ありがとうございます。ただいま委員の中から留任というお言葉がございましたが、皆様よろしいでしょうか。

【「はい」の声】

【熊谷復興局長】 それでは、委員長には東京工業大学の中井検裕委員、副委員長には東京大学の羽藤英二委員に引き続きお願いしたいと考えております。いかがでしょうか。

【拍手】

【熊谷復興局長】 ありがとうございます。それでは、ご異議がないようですので、委員長は中井検裕委員、副委員長は羽藤英二委員をお願いすることと決定いたしました。中井委員長には、現地視察終了後、第2部の会議の場におきましてご挨拶をいただきたいと考えております。

それでは、先ほどご説明申し上げましたが、これから現地視察の方に移らせていただきますので、車の方はこちら4号棟の東側といいますか、国道340号側にマイクロバスの車庫がございますので、そちらの方にご移動のほどよろしく願いいたします。

それでは、皆様ご移動のほどよろしく願いします。資料につきましては、先ほどご説明しましたけれども、資料9をお持ちいただければと思います。

4 現場視察

(1) 高田松原津波復興祈念公園及び道の駅等の整備事業

【現場視察】

—第2部—

5 委員長挨拶

【熊谷復興局長】皆様、予定の時刻より若干早いところでございますけれども、皆様お集まりでございますので、第2部の方に移らせていただきます。

それでは、初めに当推進委員会の委員長である東京工業大学 中井検裕先生の方からご挨拶を頂戴したいと思います。先生お願いいたします。

【中井検裕委員長】皆さん、こんにちは。引き続き委員長を仰せつかりました中井でございます。

ちょうど1年くらい前にこの震災復興計画の推進委員会がございまして、メンバーが若干入れ替わったようにも思いますけれども、また皆さんと1年ぶりにこういう形でお元気な顔を拝見することができて、とてもうれしく思います。

まずは、視察の方ご苦勞様でございました。ご覧いただけたかと思っておりますけれども、復興祈念公園も今年の夏から秋にかけて順次施設がオープンしていくということで、非常に大がかりな工事は大体終わりの方に大体近づいてきているというように思います。そういう意味では、8年前に計画をしたことが大分進んできたなという思いもある一方で、まだまだこれからかなというような、ちょうど今そういう両方の思いが私自身の中にも交錯しているといったような状況でございます。

この推進委員会は、1年に1回ということで定期的にかかせていただいておりますけれども、そこでこれまでの到達点を確認しながら次に向けて、また皆さんからいろいろとお知恵をいただくような機会ということだと思います。まだ復興計画の推進委員会、これからも続けていくこととなりますけれども、皆さんからアイデア、これからはどちらかという多分アイデアと、それからそれをどうやって実行していくかと、大がかりな工事は大変なのですけれども、それは終わりに近づいたということで、むしろアイデア勝負の段階に入ってくるのかなというふうにも思いますので、ますますこの委員会で皆さんに議論していただくことが非常に大事かなと思っております。ということでございますので、簡単ではございますけれども、挨拶とさせていただきます。

【熊谷復興局長】中井委員長、どうもありがとうございました。

6 市長挨拶

【熊谷復興局長】次に、戸羽太陸前高田市長からご挨拶を申し上げます。

【戸羽市長】それでは、一言ご挨拶申し上げたいと思います。委員の皆様方には、大変お忙しい中をお集まりいただきましてありがとうございます。

今、中井委員長からお話がありましたとおり、この会は復興計画の推進委員会ということですが、復興計画そのものは8年間ということを立てさせていただきましたので、この3月をもって一応8年間ということになりますが、ご案内のとおり、まだ復興そのものは続いているということでございます。今アイデア勝負というお話もありましたが、いろんな施設ができてきたりはしておりますけれども、まずは区画整理事業、これをしっかりと進めていかなければいけないということ、それからそれぞれの魅力ある施設等をどうつないでいくかということがまた課題になってきております。特に交通網というか、その移動の手段なども合わせて考えていかないとそれぞれが独立したもので終わってしまえば、これは点で終わってしまいますので、点を線にして面にするというのもこれからやっていかなければいけない。国からは32年度という復興期間を示されているわけですので、その中でしっかりとできることをやっていくということだろうと思いますが、いずれ今日は皆様方からいろんな意見をいただきながら、また現在の状況を再確認いただきながら意義のある委員会にしたいというふうに思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

以上でございます。

【熊谷復興局長】 それでは、ここからの委員会の運営は、設置要綱の規定により委員長が議長となることとなっておりますので、中井委員長、どうぞよろしくお願いいたします。

7 説明

(1) 復興実施計画の進捗状況等について

(2) 被災者の生活再建状況について

(3) その他

【中井検裕委員長】 それでは、次第に基づきまして会議を進めてまいりたいと思います。

次第では、市長のご挨拶が終わりましたので、7の説明というところでございます。まず、(1)の復興実施計画の進捗状況等についてですが、まず初めに復興推進課からご説明をお願いいたします。

【村上復興推進課長】 視察の方も大変ご苦勞様でございました。震災復興実施計画の進捗状況などにつきまして、復興局復興推進課長からご説明を申し上げます。

初めに、資料2「陸前高田市震災復興実施計画事業の進捗状況」についてでございます。A4サイズの1枚ものでございます。左上の「1 事業の進捗状況」の欄をご覧ください。市の震災復興計画に掲げる全165の主要事業の年度別完了見込みを表したものであります。完了見込み年度に応じ①から④まで区分し、色分けをしてございます。隣の事業数割合と併せてご覧ください。

青色の①、本年度が最終となる「市の復興計画期間内に完了する事業」とありますが、今年度には気仙小学校や今泉保育所の再建整備事業、防災集団移転促進事業によります住宅団地の造成事業など完了済み、または完了予定が 116 事業であり、事業数では全体の 70%の事業が完了見込みとなっているところでございます。

ピンク色の②、平成 31 年度完了予定の主な事業につきましては、(仮称) 市民文化会館整備事業、今泉地区コミュニティセンターを整備するコミュニティ施設整備事業、道の駅、先ほどご覧いただきましたが、道の駅の物販販売施設を整備する道の駅等観光施設整備事業、そして野球場やサッカー場を整備する高田松原公園運動施設再整備事業などの 10 事業であり、事業数割合では 6%でございます。

薄緑色の③、平成 32 年度完了予定の主な事業では、市役所新庁舎整備事業、公共下水道整備事業、高田今泉地区被災市街地復興土地地区画整理事業など 32 事業でありまして、事業数割合では 20%であります。

最後に、グレー色の④、国の復興期間終了後も継続して実施していく事業であります。これらの事業は、平成 33 年度以降完了を予定している事業となりますが、7 事業であります。事業数割合では 4%となる見込みでございます。

資料の右上の国の復興期間終了後も継続して実施する事業の欄をご覧ください。右上でございます。内訳でございますけれども、被災者、被災事業者の支援を目的とするソフト事業として、1つ目が被災者の住宅再建を支援する「被災者住宅移転等再建支援事業」、2つ目として生活再建に関する相談助言体制を整備していく「生活再建相談事業」、3つ目が被災漁業者の早期再建を支援するための「復興特別資金利子補給事業」、4つ目が被災中小企業の事業再開、再建を支援する「中小企業等再建支援事業」となっております。これらのソフト 4 事業につきましては、表中にも記載しておりますが被災者支援、なりわいの再生などを目的とした事業であり、国の復興期間終了後においても当面の間、事業を継続する必要がある事業と認識しているところであります。

次に、その下ですが、ハード事業でございます。1つ目は、「大肝入屋敷（大庄屋）復元事業」、2つ目は「小友浦干潟自然再生整備促進事業」、3つ目が「(仮称) 一本松記念館整備事業」であります。これらの 3 事業につきましても、財源につきましては復興期間内には引き続き国へ財政支援を要望していくとともに復興期間終了後においても国、県の補助金や過疎債など既存の制度の枠組みの中で財源を確保しながら完成に向けて事業を実施していこうとするものであります。

また、この場に資料はございませんが、例年、事業費ベースで進捗状況をお示ししている改定後の震災復興実施計画につきましては、3 月末までに皆様に送付させていただくこととしております。

なお、詳細な資料については、後に送らせていただくこととなりますが、今申しあげましたように事業数による復興事業全体の進捗状況としては70%でありませんが、事業費ベースで申しあげますと、市が実施している復興計画の推進等に要する総事業費がおよそ3,600億円を見込んでおりまして、そのうち2,900億円が今年度末までに執行予算化を予定しており、事業費ベースでの進捗状況としては、およそ80%の進捗状況となる見込みでございます。

次に、資料の3「東日本大震災からの復興のあゆみ」をご覧ください。A3サイズの1枚ものの資料でございます。今年度が今申しあげましたように、市の復興計画期間の最終年度となりますことから、これまでの総括として東日本大震災からの復旧・復興の成果につきまして、主要なハード事業の整備状況や市民生活に直結する重要な出来事などを中心に新たに取りまとめたものをお示ししたものであります。今後これらの内容の充実させたものを整備してまいりたいと考えているところでございます。

続きまして、資料の6をご説明いたします。「陸前高田市震災復興計画 主要事業ロードマップ」でございます。A3サイズの1枚ものでございます。このロードマップについては、左上の方にロードマップの構成という部分でございますが、第1の「災害に強い安全なまちづくり」から第6の「協働で築くまちづくり」までの震災復興計画に掲げる6つのまちづくりの基本目標ごとに完了または完了予定年度を表したものでございます。完了済みの事業については赤枠で、例えば平成30年度完了のように表示しております。31年度以降、32年度完了予定については、それぞれ色分けをして区分をしております。

続きまして、次にA3の1枚ものの資料7、「高田地区・今泉地区 公共施設・道路等完成時期(予定)」をご覧ください。資料7でございます。この資料は、31年3月末時点の各公共施設などの完成予定時期を記載したものでございます。黄色で塗りつぶしてあるものが既に完成済み、あるいは今年の3月末までに完成見込みの施設などでございます。

もう一度申しあげますと、先ほど視察していただきました高田松原エリアにおける復興祈念公園ですとか新・道の駅、国営追悼・祈念施設などのそれぞれの完成予定時期を表しているものでございます。先ほどちょっと離れておりましたが、運動公園エリア、第一野球場やサッカー場などにつきましては、来年の3月までに完成見込みとなっております。

この松原地区などの市の交流人口の拡大に不可欠な施設が間もなく完成しようとしているところでございます。一日も早い完成が待ち望まれているところでございます。

以上で説明を終わります。

【中井検裕委員長】 それでは、続いて商工観光課から説明お願いいたします。

【村上商工観光課長】 商工観光課の村上と申します。私の方からは資料5、「被災事業者の再建状況」についてをご説明させていただきます。

被災事業者の再建状況でございますが、まずは表の方をご覧くださいと思います。被災事業者数でございます。まずは、東日本大震災前の商工会の会員数でご説明をさせていただきます。震災前の会員数は 699 事業者でございました。それで、震災によって被災をした事業者数が 604 事業者、被災した割合といたしましては約 86.4%でございます。

続きまして、下の表です。現在の会員数につきましては、震災前からの会員数といたしまして、営業を継続していた方、あとは再開をした方、合わせて 414 事業者、会員にはなっているもののまだ事業が未再開のまま会員になっておられる方が 11 事業者、あとは市から転出をしたのですが、まだ会員には残っている方が 24 事業者になります。それで、震災後新規に会員になられた方が 92 業者でございます。それで、現在の会員数につきましては 541 事業者となっているところでございます。右上の写真につきましては、今年度 11 月の始めに市の産業まつりの方を開催しておりまして、晴天に恵まれまして、多数の事業者様の参加もあり、大変盛況に終わったところでございます。

簡単でございますが、以上で説明を終わります。

【中井検裕委員長】 ご説明ありがとうございました。

ただいま復興実施計画の進捗状況といたしまして、復興推進課からは復興実施計画事業の進捗状況、8年間の復興のあゆみ、そして公共施設、道路の完成予定時期など現状の説明がございました。商工観光課からは、被災事業者の再建状況ということで商工会の会員数を中心にご説明いただいたところでございます。

それでは、ここでご質問やご意見等を伺うこととさせていただければと思います。どの点についてでも結構ですので、ご質問、ご意見等ございましたら挙手の上、ご発言をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

それでは、ちょっと皆さん方お考えかもしれませんので、私から一つ、今ご説明がありました商工会のところで震災後新規会員数というのが 92 あるということですが、これは新しく震災後に事業を始められたという方々だと思うのですが、これはどういう方々かというのは事務局の方では何か把握されているのでしょうか。

【村上商工観光課長】 商工観光課長からお答えをいたします。

新規の会員の主な業種でございますが、まずはやはり建設関係の事業者が 13 事業者と一番多くなっております。続きまして、理容、美容関係が 9 業者、あとは飲食店が 9 業者となっております、そういうところが主な業種となっているところでございます。

【中井検裕委員長】ありがとうございます。

委員の皆さんいかがでしょうか。

特にないということであれば、次に進ませていただいて、またそこでご質問を受けようと思っておりますので、あわせてでも結構ですので、それでは、どうぞ。

【伊東孝委員】質問させていただきます。資料7なのですけれども、それぞれできた施設、それからこれからの施設のところがありますけれども、ほとんどのところには平成何年の何月とか、終わったとか、平成何年の何月に終わるという表現の仕方なのですけれども、この一本松記念館だけは平成33年からという表記なのですけれども、これはどういうところなのでしょうか。

【中井検裕委員長】事務局の方でお答えいただけますか。

【熊谷復興局長】復興局長の方からお答え申し上げます。

一本松記念館につきましては、今までもいろいろと検討してきております。ただ、課題となっているのが財源というところがございまして、その部分がなかなかまだ見通しは立っていないというところがございます。それらを含めまして、どのような施設がいいものか、それから一度見直しをした方がいいのかとか、それらも含めて検討させていただきたいなというところでございますので、具体的に今の時点でこの時期に完成するとか、そういうものはちょっとまだお示しはできないところでございます。

【戸羽市長】すみません、博物館のところの関係についても説明をお願いします。

【熊谷復興局長】それでは。以前から一本松記念館については、当初は博物館と一体となって、その中で博物館の機能と、それから一本松記念館と2つの施設の面を持った一つの建物を整備しようということで進めてきたわけなのですが、国の方から災害復旧を使って博物館を整備する際には、やはりそれは博物館は博物館の機能として整備しなさいということになったものですから、先ほど申し上げましたとおり、財源の問題がちょっと出てきているというところでございますので、それらの検討は一番の課題かなと思っておりますので、時期的なものについては今後検討させていただきます。

【中井検裕委員長】博物館というのは、一本松記念館の隣というか、西側に予定されているということでございますね。

どうぞ。

【吉田ハマ子委員】市長も目指しています優しいまちづくりの中で、便利な交通機関ということで、今度はこういった松原とか、体育施設とか、そういったものもありますし、今度道の駅もできましたので、そこを結ぶような市内をぐるっと回って、お客さんが、駐車場がばらばらになった場合にそこから歩いていくとなるとちょっと遠くなるので、そこをもっと便利にさせていただけるように、また奥地の方からもすんなりと高田の方に来れるようなあれを早目にやっていただければありがたいなと思います。

そうすることによって、高田のまちも活性化するのではないかなと思います。年をとりますとなかなか交通の免許を返したくても返せないとかという人も多々ありますので、早目に実行していただければありがたく思います。

【中井検裕委員長】ありがとうございます。

では、お願いします。

【岡本副市長】

副市長よりお答えいたします。まさにその問題につきましては、本当に大事なことだと思っております。被災地ということに限らず、全国、地方ではそういうことが本当に問題になっているのだろうというふうに思っております。市としても、今度は明日にシンポジウムを、交通に関するシンポジウムを開かせていただきますので、もしお時間ありましたら見ていただければと思いますけれども、新たな小さなモビリティとか、そういったものとかを活用したりして、それをうまく中心市街地と道の駅、そういったところを結ぶようなものをできないかとか、もしくは今回公共交通会議の計画の中でも出させていただきましたけれども、地元の交通事業者さんともしっかりと連携をした上での支え合い交通ですとか、いろんな地元の方に交通のお手伝いをいただきながら一緒になって地域の交通を守っていく、つくっていく、そういったことができないかということをいろいろ検討したいと思っております。

また、当然検討しているだけではなくて、それを実行に移さないと意味がないと思っておりますので、新年度も含めて実験的なところから徐々にスタートしたいと思っておりますけれども、実行できる段階にまで引き上げていきたいというふうに思っておりますので、よろしく願いいたします。

【中井検裕委員長】ありがとうございます。

他はいかがでしょうか。

【「なし」の声】

【中井検裕委員長】それでは、ちょっと先ほど申し上げましたけれども、次の説明を受けて、また戻っていただいても結構ですので、ご質問を受けるような形にさせていただければと思います。

次第の7の説明の(2)になります、被災者の生活再建状況についてでございます。担当課より説明をお願いいたします。

【村上復興推進課長】それでは、引き続きまして資料4「東日本大震災からの復興の取組状況」についてご説明をさせていただきます。

ページの右下に番号を振っておりますが、1枚おめくりいただいて、上段の2ページ「1 応急仮設住宅等への入居状況」についてご説明をさせていただきます。

平成30年の12月31日時点でございますが、市内応急仮設へ257世帯、633名の方が、また、みなし仮設と言われる県内外の民間アパート等への入居者が60世帯、133名、合わせまして317世帯、766名の方が今現在も、12月時点では入居されているということでございます。これを市内の仮設住宅に限定して申し上げますと、入居率では12%になるというふうな状況でございます。

次に、住宅再建の状況についてご説明いたします。下の3ページとなります。

「2 被災世帯の再建状況」につきましてご説明をいたします。同じく平成30年12月末時点の数字でございます。この資料につきましては、国の自然災害等への救済措置といえますか、そのようなもので、津波、洪水などの自然災害で被災した方へ支援金を支給します被災者生活再建支援制度というものがございまして、その支援金の支給実績に基づいて作成したものでございます。大変小さい文字で恐縮ですが、右下に記載がございます。平成30年12月末時点で3,607世帯というものが基礎支援金を受給した世帯でございます。このグラフの見方でございますが、この3,607世帯の基礎支援金を受給された世帯に対して住宅再建あるいはアパート等の入居に応じて様々な加算支援金という国の支援金が支給されるわけでございますが、その加算支援金を受給世帯がどのぐらい伸びてきたかというふうなものを示す資料でございます。

グラフの一番右側でございますが、平成30年12月末では、色分けしております下欄の橙色の部分ですが、これが防災集団移転促進事業では398世帯の方が受給し、2つ上の青の区画整理事業では210世帯の方が、そしてその上の緑の自力再建では1,049世帯の方が再建されたというふうな数値となっております。その他の再建方法と合わせまして、合計では2,926世帯、81.1%の方が再建されたというふうに捉えてございます。

次に、右隣でございますが、4ページをご覧いただきたいと思っております。土地区画整理事業のうち、高田地区について記載したものでございます。右上の方の「高田地区の概要」というところでございますが、施工面積は186.1ヘクタール、その内訳として高台の45ヘクタール、嵩上げ部87.1ヘクタール、平地部54ヘクタールとなっており、計画戸数は1,172戸でございます。総事業費で申し上げますと、670億円となっております。表中、その下の方にスケジュール欄に記載がございますように、平成30年には高台5が1月に、高台7が3月に、高台6が昨年7月に宅地の引き渡しを完了しております。また、嵩上げ部におきましては、完成の都度順次宅地の引き渡しを行うという状況でございます。

そして、次の今泉地区、5ページでございます。同じく施工面積は112.4ヘクタールで、内訳は高台部60.1ヘクタール、嵩上げ部38.2ヘクタール、平地部14.1ヘクタールとなっております。計画戸数は617戸であります。

総事業費で申し上げますと 870 億円となっております。スケジュール欄で申し上げますと、高台 4 から高台 7 については、今年の 3 月までに宅地の引き渡しを完了しております、その他の地区につきましては住宅完了後、随時引き渡しを行っているところでございます。

恐れ入りますが、時間の関係で裏面の 6 ページと 7 ページの説明は省略させていただきます。

【中井検裕委員長】説明は以上ということよろしいですか。

それでは、ただいま被災者支援室から被災者の生活再建の状況についての説明もございました。ただいまのご説明についてでも結構ですし、その 1 つ前のご説明についてでも結構ですけれども、ご質問やご意見、ここで伺うことにさせていただきます。ご質問、ご意見等ございましたらご発言お願いいたします。いかがでしょうか。

どうぞ。

【小野寺彦宏委員】要望なのですけれども、意見というよりは。よろしいですか。

【中井検裕委員長】はい。今マイクが参ります。

【小野寺彦宏委員】今現地視察してきた防潮堤についてなのですけれども、震災復興をずっと支援して下さった関東とか、関西の人達が今現地を、陸前高田に訪れている人がいます。どこを案内しようかなと思うのだけれども、やっぱり防潮堤に立ってみると陸前高田が一望できるし、津波のあれもわかるので。ところが防潮堤はあそこに上がるのに大船渡土木事務所の許可を得てヘルメットをかぶらないとだめなのです。陸前高田もそれは建設課で、連絡して見学するということができるのでしょうか。

【中井検裕委員長】これはどこがお答えできますかね。

【熊谷復興局長】それでは、復興局長からお答えを申し上げます。

まさに、ただいま復興の状況がよく見れるのは防潮堤からかなと思っております。さっき小野寺委員さんのおっしゃるとおり、工事現場でございますので、いろいろと制約がありますけれども、そういう視察の要望のある方々を市街地整備課なり建設課なりにお声をかけていただければ、その都度土木センターの方に連絡をとりながら、どうかという問い合わせをさせていただいておりますので、まずは市役所の方にでもご連絡いただければなと思っております。

【中井検裕委員長】可能な限り対応していただけるということよろしいですね。

他いかがでしょうか。特にございませんか。小野田先生何かございますか。よろしいでしょうか。

【「なし」の声】

【中井検裕委員長】特にないということございましたら、先に進めさせていただこうと思いますけれども、よろしゅうございますか。

【「はい」の声】

【中井検裕委員長】ありがとうございます。それでは、次に「(3) その他」ですけれども、事務局よりご報告があるということですので、お願いいたします。

【事務局】復興局復興推進課事務局の佐々木と申します。私の方からは、復興まちびらきの関係でご報告をさせていただきます。

中心市街地の再生に当たりましては、平成 29 年 4 月のアバッセたかた・まちなか広場のオープンを皮切りに公共施設や店舗の再建、新設が進んでおりますが、昨年 9 月 29 日、30 日には「まちびらき」という節目を迎えたところでございますので、ご報告をさせていただきます。

資料の 8 として付けさせていただいておりますが、まちびらき記念式典におきまして中井検裕委員長から賜りましたご祝辞と、まちびらき記念式典や館の沖橋渡り初めの写真を添付させていただいております。お目通しのほどお願いいたします。

以上でございます。

【中井検裕委員長】これは、ご報告ということでございますので、説明を聞きましたというところにさせていただければと思います。

8 協 議

(1) 今後の推進委員会の在り方について

【中井検裕委員長】それでは、続いて次第の「8 協議」といたしまして、今後の推進委員会の在り方についてでございます。事務局よりご説明をお願いします。

【事務局】引き続き事務局からご提案させていただきます。

先ほどご説明しましたとおり、市におきましては復興事業は約 80%が完了しましたが、復興計画期間では完了に至らない一部の事業がございますことから、現在市議会に上程しておりますまちづくり総合計画に引き継ぐこととしております。一方、復興交付金を活用して実施している土地区画整理事業などのハード事業につきましては、国の復興期間となる平成 32 年度までの完了を目指し、鋭意取り組んでいるところでございます。このような状況から、先ほど中井先生のご挨拶でもございましたが、平成 31 年度以降の推進委員会につきましては、国の復興期間となる平成 32 年度までは設置していくこととしまして、これまでと同様年 1 回の割合で開催し、事業の進捗状況等を皆様にご説明し、ご意見をいただく機会を持ちたいと考えているところでございます。

また、委員会の名称につきましては、市の復興計画期間が平成 30 年度で終わりますことから、現状に合わせまして「震災復興計画推進委員会」から「震災復興推進委員会」に名称の方を変更させていただきたいと考えているところでございます。

以上の点につきましてご提案をさせていただきますので、よろしく願いいたします。

【中井検裕委員長】ただいま事務局よりこの委員会の今後のあり方ということで、国の復興期間中ということですので、平成32年度までということだと思えますけれども、本委員会を年1回の割合で継続して開催をしていくこと、それから復興計画期間8年間が終了したということから、現状に合わせて推進委員会の名称を変更するというご提案でございました。この件について何かご質問や、あるいはご意見ございますでしょうか。

先ほど私からも申し上げましたように、復興はまだ続いていますので、この種の委員会を開かせていただくということは非常に大事だと思いますので、そのような方法で今後進めさせていただければと思います。事務局のご提案どおり、今後も年1回ということで推進委員会を開催することといたしまして、名称については事務的なところもございますが、了承するというごことでご異議ございませんでしょうか。

【「異議なし」の声】

【中井検裕委員長】ありがとうございます。

それでは、事務局に委員会の設置要綱の改正など所要の手續については進めていただくこととしたいと思います。よろしく願いいたします。

それでは、ここでメーンの議事はここで終了ということでございますので、事務局に進行をお返しいたします。

【熊谷復興局長】中井委員長、進行どうもありがとうございました。

9 その他

【熊谷復興局長】それでは、次第に沿いまして、次第の「9 その他」でございますが、皆様方から何かご意見等ございますでしょうか。

【吉田ハマ子委員】すみません、たわいもないことを。この前テレビを見ていましたら、また津波が来るというお話があったのです。大きな津波が来そうな心配がテレビの中で話されましたので、今度市役所を建てる時には7階建てなのですが、皆さんの大事な資料とか何かを、コンピューターとか何かはもちろん上の方になるのですよね。今まで市民課とかは1階は1階、2階は2階とそこでコンピューターが入っているかもしれないですが、この先は高いところに全部集約して、何が起きても、大きな津波が来ても大丈夫なようなシステムにしていいただければありがたいなど。何があってもすぐ稼働できるような、そういったことになっていただければありがたいと一言それだけお願いしておきたいと思えます。

【村上総務部次長】市役所の建設の件でございますので、総務部次長からお話をさせていただきます。

この3月議会で庁舎の建築工事の請負については議決をいただきまして、これから2年後の完成を目指して進めていくこととなります。その建設場所であります現高田小学校の敷地となりますが、嵩上げ工事をした上に、さらに5メートルを嵩上げしまして、前回の津波の来ない高さにした上に7階建ての庁舎を建築するという形になっております。今情報等のことをご心配されましたけれども、それにつきましても電算室の方は屋上階に設置すると、一番高いところに設置すると、そこに災害等に対応する無停電の設備であるとか、そういうものも一緒に設置する予定としておりますので、万が一の場合でも守られるということですので、ご安心いただければと思います。

【熊谷復興局長】はい。

【吉田広行委員】この場の会議にふさわしくないという質問であればオーケーですので、ちょっとお尋ねしたいのですけれども、3日前の岩手日報の1面にUターン者、Iターン者に対して100万円を補助しますということ載っていたのを皆さんご覧になったと思うのですけれども、ちょっと気になって私が問い合わせたところ、この辺も陸前高田は漁業が多いのですけれども、担い手不足とか、人口不足とか言っていて、自営業者、漁業者は対象になりませんと、県のほうに問い合わせたら言われたのです。陸前高田市さんはどのように考えているか分かりませんが、これは自営業者である漁業者に対しては、例えば跡取りが帰ってくると、漁業の跡取り、そういう人に対しては対象にならないと言われたのですけれども、どう思いますか。

【佐藤企画部長】企画部長の佐藤でございます。地方創生ということで、第1弾として移住定住ということをやって、単年ですが、今、国の第2弾ということで、今おっしゃられるように首都圏から来られたときに国の制度のところでは100万円、それから岩手県で登録している新たに起こす業という形になりますと300万円というふうな制度設計をしていると伺っています。

市としても移住定住、UIターンも含めまして、今進めていくという形になっていますが、漁業でありますと、がんばる漁業の担い手とか、農業の後継者、林業も含めましていろんな形の制度を進めていきたいというふうに考えているところでもあります。

【吉田広行委員】漁業者だけではなくて、その自営業者に対しても対象にならないと言われたのです。

【佐藤企画部長】漁業制度を見ながらですが、UIターンが増えるような形を考えていかなければいけないというふうに考えております。

【吉田広行委員】自営業は入るかどうか。

【佐藤企画部長】自営業についても、国の制度の情報は把握しきれていない部分もありますので、確認してみますが、ちょっと難しいかなという感覚で見えています。

【熊谷復興局長】よろしいですか、それともまた後でも。

その他、せっかくの機会でございますので。

【小山公喜委員】アップルロードにつながる北幹線何カ所かで工事が進んでいまして、間もなくできるんだなという期待を持っているところなのですが、33年度完了予定ということでありましたけれども、実際に33年度完了というのは間違いないということでしょうか。例えば土地の買収の方で遅れるとかというようなことは今のところはないと思っていてよろしいのでしょうか。

【菅野建設課長】建設課の菅野でございます。私の方からお答えさせていただきます。

高田米崎間道路につきましては、今のところ32年度末、33年3月の完了予定になってございまして、地権者の皆様からは、おおむね了解といいますか、ご協力いただきまして、随時工事の方はこれから進めてまいりたいというふうに考えているところでございます。

【熊谷復興局長】活発なご意見いただいたところでございますが、時間もございまして、そろそろよろしかったら最後のご意見等いただければと思いますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

【「なし」の声】

【熊谷復興局長】皆さん、どうもありがとうございました。

それでは、中井委員長から本日の会議の総括としてお話をいただければと思います。よろしく願いいたします。

【中井検裕委員長】ありがとうございました。総括というわけでもないのですが、幾つかあったご意見で、連携が非常に大事だということが1つあるかと思えます。視察いただいてご覧いただいたように、今度できる道の駅と、それから中心市街地のアバッセの辺りというのは歩くとそこそこの距離があるということで、この2つの地区ですね、それらをどう連携していくかということが多分中心市街地にとっても、復興祈念公園にとっても、いずれにとっても非常に大事な要素になるのかなと思って、それで連携の一つに行ったり来たりできるような新しい交通機関をぜひ実験的にでもいいので、入れていただくような方法で検討していただけるといいなと思っています。

ただ交通のお話もありましたけれども、この種の実験は使っていないと実験にならないので、これから多分施設の運営にしる、それからいろんな移動手段の交通実験とか、あるいは場合によっては物をドローンで運んだりというような、そういう実験も出てくるかと思えますけれども、市民の皆さんがどれだけそれを使っていたか実験の整理も決まってくる部分が非常に多くございます。

既に、例えば自動運転の実験というのは離島ではぼちぼち始まっていて、そういうところでまずは本格的にできるかどうかということを確認している段階ですので、これからそういう新しい試みのようなものがいろいろ出てくるのではないかと思います。ぜひそれに参加をしてみたり、それを使っていただくなりというのを市民の皆さんがやっていただかないとせっかくの実験の成果が本格的な運用にならないということがあるので、ぜひそこはお願いをしておきたいというふうに思いました。

2つ目は、会議のということではないのですけれども、復興計画が8年間の一応節目を迎えたということもございまして、今日も少し資料として出されておりましたけれども、復興の記録をきっちりと整理しておくことが今後その他の地域あるいは今後またこうした災害があるときに非常に重要な記録、情報になると思いますので、これまとめるのはかなり大変なのですけれども、少なくとも記録や材料が散逸しないようにぜひこれ市役所、行政、それからいろいろなそれぞれの団体でそういう議論を重ねてきた議事録とかあると思いますので、散逸しないようにぜひしていただければいいなというふうに思います。

それから、最後はやや付け足しですけれども、メインの議題よりはその他のほうが皆さんいろいろ意見が出るようなので、次回はその他の項目をふやして、しっかり皆さんからいろいろな意見を発言しやすいように進行してまいりたいと思いますので、これはまたちょっと事務局と相談させていただければと思います。

簡単ではございますけれども、私からは以上でございます。

【熊谷復興局長】中井委員長、本当にありがとうございました。今後の持ち方につきましても委員長とご相談させていただきながら、この推進委員会もより充実したものにさせていただきたいと考えております。

10 閉 会

【熊谷復興局長】それでは、会議の終了に当たりまして、戸羽市長から改めてご挨拶を申し上げます。

【戸羽市長】皆さん、どうもありがとうございました。感謝申し上げます。今中井先生からもお話がありましたが、その他のところで多分皆様方いろんな工事をしていたり、いろんな制度が新聞に出たりしても実際のところはよく分からないというようなことだろうと思います。我々とすれば、先ほどのお話もちょっとありましたが、国は国でそういう考えかもしれませんけれども、市は市でUIターンを促進するためには何かしらそういう来てくれた方々に対する制度というのはつくっていかねばならないだろうというふうに思ったりもしています。

いずれ皆さんがお感じのことを聞かせていただくということが一番大切なことだというふうに思いますので、この会議のみならず様々な場面で皆様方と直接お話をさせていただく機会を増やしたいなというふうに思っております。

いずれ復興まだ途上ということではありますが、一日も早い復興を目指して行政として頑張っまいますので、今後ともご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。

【熊谷復興局長】 それでは、皆様には長時間にわたりご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

これもちまして、本日の委員会を閉会とさせていただきます。本日は大変お疲れ様でございました。